

○ 本校の概要

(学校規模)児童数514名、17学級、教員数22名。今年度は開校130周年を迎え、年間を通して記念の取組を行う。(本年度の校内研究)平成27～29年度の次世代型教育推進センター実践フィールド校教員の研修システムのあり方を研究した成果を引継ぎつつ、前年度の「受け止める力の育成」から一歩進み、「受け止め合力の育成」をテーマとする。教科はしほらない。(学校マネジメント強化事業指定校)副校長の業務負担軽減、教員の働き方改革に係る学校改善の在り方をさらに深める。(特色ある教育活動)伝統的夏季サマーワークショップを再開する。・月1回の縦割り班(なかよし班)活動。・月1回の学級あそび(エンジョイタイム)。矢口ギネスによる体力向上、運動経験の増加。・総合的な学習の時間や「理科」・「生活科」等で矢口自然園を活用した体験的な活動の実施。・昨年度から延期していた総合的な学習発表会の場である「矢口文化芸術劇場」を開催する。・学校地域支援本部との連携を図り、学校支援ボランティアの活用を進める。・高学年の鎌倉実地学習を継続する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

Table with 10 columns: 大項目, 目標, 取組内容, 取組指標, 取組評価, 目標に対する成果指標, 成果評価, これまでの取組, 今後の改善策, 学校関係者記入欄. Rows include categories like '未来社会を創造的に生きる子供の育成', '児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます', '子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めること、自他を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます', 'スポーツに親しむ心や運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします', '児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す', '学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。'

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す